

### 仏沼での水位調節の試みによって再開されたチュウヒの繁殖

チュウヒ *Circus spilonotus* はタカ目タカ科に属する猛禽類の1種で、ヨシ原などの湿性草原に生息する。日本では主に北日本の大きな湿性草原で繁殖し、繁殖つがい数は 80-90 つがい（環境省編 2014、環境省 2015）、生息個体数は 300-450 羽（環境省編 2014）と、国内で繁殖するワシタカ類の中で繁殖個体数が最も少ない種とされる（なお、冬季にはロシア方面から日本へ多数が渡ってきて越冬するため、個体数が一時的に増える）。よって、環境省により絶滅危惧IB類（オオセッカと同ランク）に指定され、各地で保全の試みが行われている。

仏沼（国指定鳥獣保護区特別保護地区およびラムサール条約登録域）は、秋田県八郎潟干拓地や青森県岩木川と並び、東北地方を代表するチュウヒの繁殖地である。1997年に繁殖が初確認され、最多で5つがいが観察されていた（多田2004）。仏沼でのチュウヒの巣は、①ヨシの背丈が高く（約2m）、②地面が30cmほど冠水したヨシ原の中に作られ（多田・蛭名2010）、主に仏沼の最北部と南部に見られた。しかしながら、近年は①水位上昇によって開放水面が広がってヨシ原が衰退したり、②逆に水位低下によって乾燥化が進行したりしたため、適した営巣環境が消失し、2011年からは繁殖が成功しなくなっていた。

そのため、三沢市環境衛生課とNPO法人おおせっからんどは共同で、チュウヒの営巣環境を復元することを目的に、仏沼南部のヨシ原の水位調節を試みてきた。2015年には開放水面の一部で水を抜く作業（特定外来生物ウシガエルの駆除も兼ねていた）を実施してヨシの生育を促し、2017年には簡易ダム1ヶ所を設置して適切な水位の維持に努めた。

その結果、今年度（2017年度）は2つがいが観察され、そのうちの 1つがいが繁殖成功して雛1羽が無事に巣立ったことが確認された。人為的な水位調節によりチュウヒの繁殖成功を促すことができた初の事例となると考えられる。しかしながら、繁殖つがい数はまだ少なく、試みの継続と範囲の拡大が必要である。

蛭名 純一（NPO法人おおせっからんど 理事・主任研究員）

宮 彰男（NPO法人おおせっからんど 理事）

高橋 雅雄（日本学術振興会 特別研究員・理学博士）

※問い合わせ先：高橋雅雄

090-2099-7894；hachi77vanellus@yahoo.co.jp



写真 1. 仏沼で確認されたチュウヒの巣と 4 雛 (2017 年 7 月 1 日)